

群 教 セ	G01 - 02
	平 17.228 集

根拠を明確にして意見文を書く力を高める指導の工夫

— 学習過程に応じた交流活動を通して —

特別研修員 長谷川 純子 (館林市立第八小学校)

（研究の概要）

本研究は、意見文を書くことの学習に、自分の意見とそれを支える根拠との整合性などを確認する交流活動を取り入れ、根拠を明確にして筋道が通った意見文を書く力を高める指導を工夫したものである。交流活動は学習過程に応じて、意見をもつとき、根拠を選ぶとき、意見文の意見と根拠を確認するときの3回行い、その中で、自分の意見と根拠を確かめ、相談することにより、よりよい意見文を書く力を養おうとした。

キーワード 【国語 小 書くこと 根拠を明確にする 意見文 交流活動】

主題設定の理由

本校では教育課程実施状況調査の結果より、記述する問題での無解答の多さが目立ち、自分の考えをもち、表現する力の欠如が問題になった。これは、文章を読み取った後、自分の意見をもつことや意見を文章化することができないことが原因であると考えられる。

「書くこと」の指導では、相手意識や目的意識をもって、伝えたいことを過不足なく依頼状や礼状に書くことや、丁寧な言葉を使うことを指導してきた。また、作文への抵抗感を減らすために、学年で短作文の時間を週に2回設けて指導している。その中で、その日の出来事や課題作文を書くことを通して、児童は目的に合わせた文の構成を意識し始めた。作文は毎回目当てを明らかにして書かせた。目当てに合った短作文を掲示することで、書きたいという意欲を見せる児童が増え、書くことへの抵抗も減りつつある。しかし、自分の意見をもち、根拠を挙げて文章を書く力は不十分である。自分の意見を誰かに伝えたいと思うとき、相手を説得できる根拠が必要になる。さらに、意見やそれを支える根拠を分かりやすく書こうという目的がはっきりする。そこで、学習指導要領解説「B書くこと」の5・6年の目標「目的や意図に応じ、考えた事などを筋道を立てて書く」を踏まえ、自分の意見で読み手を説得するために、自分の意見や根拠を明確にして、文章全体を見通し筋道が通った文を書けるように指導していくことが、分かりやすい意見文を書く上で大切である。

本研究では、自分の意見をもつとき、根拠となる事柄や具体例を選ぶとき、意見文の意見と根拠を確認するときに交流活動を取り入れる。その中で、意見と根拠を友達と相談したり比較したりすることで伝えたい意見をもつことや意見を支える根拠を明確にしていく。また、提示された意見文の構成に合わせて記述するだけでなく、読み手を説得できるかを友達と一緒に考えていく。自分の意見や根拠をもち、相手を説得することを考えることが、意見文を書く力を高める上で重要である。

以上のことから、意見文を書くことにおいて、それぞれの学習過程に応じて交流活動を行うことが、自分の意見に合った根拠を選び、根拠を明確にして意見文を書く力を高める上で有効であると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

書くことの学習において、集材、選材、構成、記述の過程で、交流活動を通して自分の意見とそれを支える根拠の整合性と、根拠の軽重や質、意味付けを考えることが、根拠を明確にして意見文を書く力を高める上で有効であることを、実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 集材の過程において、意見と根拠を紹介する活動を取り入れ、互いに比較すれば、自分自身の意見をより明確にもつことができるだろう。

2 選材の過程において、自分の意見と根拠の整合性を確認する活動を取り入れ、友達の見意見を参考にしながら根拠の軽重や質について相談すれば、自分の意見をしっかり支える根拠をもつことができるだろう。

3 構成・記述の過程において、提示した文章の構成の型に沿って記述し、根拠が効果的であったかを話し合う活動を取り入れ、配置する順序や意味付けについて考えれば、根拠を明確にして意見文を書く力を高めることができるだろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 根拠を明確にして意見文を書くことについて

児童が日常生活の中で何かに対して意見を持ち、根拠を明確にして書こうとすることはまれである。意見文を書くには、まず自分の意見をしっかりとつことが大切である。意見とは、経験に関する事柄や問題に対する自分の考えであり、考えたことの中心的内容が明確になっているものである。感想が事柄や事実に対する自分の気持ちであるのに対し、意見は伝える相手を意識し、より積極的に自分の考えを述べようとするものである。

意見文を書くには、意見に合う根拠を示さなければならない。根拠とは、自分の意見を支える事柄や事実である。根拠を明確にするとは、自分の意見を支える事柄や具体例を見付け、根拠を意味付けることである。また、根拠を意味付けるとは、根拠が自分の意見を支えていると考える理由をもつことである。自分の意見を伝えたい、分かってほしいと児童が感じたときに、借り物でない自分の言葉で表現しようとする。そのとき、自分の意見を支える根拠を見付け、根拠が自分の意見を支えていることを意味付けようとする意識が生まれてくると考えた。

自分の意見を主張するためには、意見とそれを支える根拠の整合性を確かめ、文章構成に着目し、

どの順序で根拠を提示すると説得できるか、根拠の意味付けが入っているか、などを工夫しながら記述することが必要である。

(2) 学習過程に応じた交流活動について

根拠を見付けるには、取材の中で根拠となる事実を集材する過程と、自分の意見を支える根拠を選材する過程が特に重要なので分けて扱うことにする。また、根拠を明確にしようという意識は、集材や選材の過程だけでなく、意見をもつときや、記述するときにも考え続けられるものである。そこで、学習過程に応じて交流活動を取り入れることが、意見と根拠との整合性と、この根拠で相手を説得できるかを確かめることになり、意見と根拠を明確にもたせることにつながると考えた。

1 回目の交流活動は、自分の意見をもたせるために取り入れる。教材文の感想から課題を決め、調べる活動をする。調べて分かったことを整理することで自分の意見を持ち、意見やその根拠となる事柄や具体例について紹介する。自分では得られなかった根拠や自分と異なる立場からの意見を情報として蓄積させる。そして、友達から得た情報によって意見や根拠をさらに考えることで、自分の意見をもつことができると考えた。

2 回目は、自分の意見や根拠を明確にするために意見や根拠を図に整理し、友達と話し合う交流活動である。その中で、意見と根拠の整合性と根拠の軽重や質に目を向け、自分とは異なる意見の人を説得していくことができるかどうかを考える。たくさんの事柄や具体例の中で、どれが自分の意見を支える根拠として適切かを考え、取捨選択していくことで根拠を明確にする力を育てていく。

3 回目は、根拠が読み手を説得するための提示順か、意味付けがあるかを班で話し合う交流活動である。その中で、根拠の提示順に飛躍がなかったか、どうしてその事実が根拠なのかという理由があるかを確かめさせる。自分の意見で読み手を説得するための根拠の大切さを考えることが、意見文を書く力を高める上で必要だと考える。

2 研究の方法

(1) 授業実践計画

対象	館林市立第八小学校 5年2組30名	期間	平成17年10月上旬 (9時間)	単元名	伝え合って考えよう(光村図書 5年上) 「人と『もの』との付き合い方」
目標	資料「ごみ問題ってなあに」をきっかけに、環境に関する自分なりの課題をもって調べ、交流活動を通し意見と根拠を明確にして、筋の通った意見文を書く。				

(2) 検証計画

	検証項目	検証の観点	検証方法
見 通 し 1	集材の過程	環境問題についての自分の意見や根拠をクラスで紹介し合う交流活動を取り入れ、ワークシートに記入し互いに比較することは、自分の意見をもつ上で有効であったか。	紹介活動で得た情報と自分の意見や根拠とを比較し、よりよい意見を見付けることができたかを分析する。(ワークシート)
見 通 し 2	選材の過程	自分の意見と根拠を書いた表や図を提示して班の児童に説明し、整合性や質を話し合う交流活動は、根拠を明確にする上で有効であったか。	意見と根拠を説明し、根拠の軽重や質に目を向け選ぶことができたかを分析する。(表や図の印、ノートの記述内容)
見 通 し 3	構成・記述の過程	意見文の根拠の提示順や意味付けを話し合う交流活動を取り入れたことは、筋が通り、分かりやすい意見文について考え、根拠を明確にして意見文を書く力を高める上で有効であったか。	根拠の順序や意味付けを確認することで、相手を説得する根拠になっていたかを分析する。(意見文、ワークシート)

(3) 抽出児童

A (男)	環境問題についての関心があり、知識も多い。しかし、課題作文では根拠を複数挙げることはなく、短く自分の考えを書くに止まっている。作文は苦手意識をもっているため、交流活動では知識が豊富なことからたくさんの発言を促し、自信をもたせ、根拠のはっきりした意見文を書く力を付けたい。
B (女)	作文の時間を楽しみにしているが、自分の意見と理由が合わず、何が言いたいのか分からない文章を書くことが多い。班での交流活動では、友達に説明したり友達の意見を聞いたりすることによって、何を言いたいのかを常に考えるように支援し、自分の意見をしっかりもつことの大切さに気付かせ、筋の通った意見文を書く力を育てたい。

研究の展開

1 評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
意見を伝えるために根拠を複数挙げて分かりやすい意見文を書こうとしている。	交流活動を通し、意見を明確にし、意見と根拠の整合性のある複数の根拠を挙げ、筋の通った意見文を書いている。	段落の構成や、意見と根拠の書き分け方に着目して、意見文の書き方を考えている。

2 指導と評価の計画(全9時間)

時間	学習活動	学習への支援	評価項目
1 { 3	資料を読み取り、感想をもつ。	資料「ごみ問題ってなあに」から、ごみのでき方、日本の江戸時代の暮らし方、マラウイの暮らし方を焦点化して読み取り、感想を書く中で、これから調べる自分の課題について考えるようにする。	(書)考えを明確にするために読み、まとめている。
4	感想から課題を考え、資料から集材することを通して、自分の意見をもつ。	課題がもてない児童のために、感想や疑問、詳しく知りたいことを挙げ、全体で確認する。 補助教材として環境問題に関する図書を児童向けの図書や一般向けの図書から40冊ほど用意する。そして、一人一人の興味や疑問に対応し、資料を生かせるように支援する。 自分の意見の焦点化を図るために短い言葉でまとめ、発表の準備をするように指示する。 短い言葉にならない児童には、一番言いたい言葉を思い付くままに書き、その中で選ぶように助言する。	(関)分かりやすい意見文を書くために、意見を支える根拠を見付けようとしている。

5 【見通し1】	意見と根拠をクラスで紹介する交流活動を通し、自分の伝えたい意見を明らかにする。	「自分の考えは何か」「その根拠は何か」「自分と同じ考えをもっている友達の根拠は何か」「自分と違う考えをもっている友達の根拠は何か」に注意して聞くためのワークシートを用意し、自分の根拠として使えるものをメモさせる。 友達から得た情報を基に自分の意見と根拠を見直し、他のクラスの友達に伝えたい意見をもつように助言する。 伝えたい意見がもてない児童には、友達の考えの中で「いいな」と思った考えを選ぶように助言する。	(書)紹介活動で得た情報と自分の意見や根拠とを比較し、伝えたい意見を明らかにし、書いている。
6 7 【見通し2】	意見と根拠を表や図に整理し、友達に説明する。 交流活動で根拠の価値や重大さについて相談し適切な根拠を選材する。	表や図に書けない児童には、「言葉の研究レポート」のマップ作りの様式で書けばよいことを助言する。 整合性が分からない児童には、意見と根拠が合っている理由が言えるかどうか、確かめるように助言する。 どの根拠を選ぶとよいのかを発表用の図で考え、読み手を説得する視点として、意見と合っているか、分かりやすいか、価値や重大さはどうか、を確認する。 意見を支えている根拠が、根拠は相手を説得できるような内容か、を考えて、班全員で相談することを確認する。 助言できない児童には、意見と合っている根拠を見付けて表や図の中で指し示せばよいことを伝える。	(書)意見と根拠が合っていたかを確認している。 (書)意見と根拠を説明し、読み手を説得できる複数の根拠を選んでいる。
8 9 【見通し3】	分かりやすい構成について考え、構成の型に合った意見文を書く。 根拠の提示順や意味付けが適切かを話し合う交流活動を行う。	読みやすく分かりやすい意見文の構成について考えるために、頭括型と尾括型の両方の意見文を用意する。 構成の視点が考えられない児童には、レポート文の構成を振り返るように助言する。 意見だと分かる文末、根拠だと分かる書き始めの言葉、根拠だと考える理由などに注意し、記述させる。 友達の意見文の意見と根拠を色分けさせる。 根拠だと考える理由が見付けられない児童には、つなぎ言葉や文末に着目するように助言する。 根拠の提示順の視点として、身近な問題からだんだん広がっていくもの、原因と現状、対比のパターンを示し、根拠の順番について話し合うように指示する。	(言)段落構成や意見と根拠の書き分け方を考えている。 (書)根拠の提示順や意味付けを確認し、相手を説得する根拠の大切さを考えている。

研究の結果と考察

1 環境問題についての自分の意見や根拠をクラスで紹介し合う交流活動を取り入れ、ワークシートに記入し友達の考えと比較することは、自分の意見をもつ上で有効であったか

環境問題について調べたことから意見をもち、それをクラスで発表するために意見と根拠を一つに絞らせた。調べているときは資料をそのままノートに写す児童が多かったが、「クラスみんなに紹介するときは、見出しのように短い言葉を見せながら説明すると聞く人が分かりやすいよ」とい

う指示をし、短くまとめさせた。児童は、自分の意見を一つに絞ることで中心をはっきりさせ、発表を意識し短い言葉にまとめることで資料の言葉を自分の言葉に置き換えていた。そのため「リユースとはどういうことですか」などと内容を理解しようとする質問が多く、主体的に取り組んでいる姿が多く見られた。また、補助教材では、児童向けの本に限らず一般向けの本からも調べる児童が多かった。児童は、環境問題について今まで関心をもっていなかったため、調べるごとに問題の大きさに気付き、危機意識をもちながら複数の本を選んで調べていた。

自分の意見や根拠をクラス全員に紹介する交流活動では、「最初に意見を発表し、次に根拠を発表しましょう。友達が後から調べられるように参考図書も知らせましょう」ということを確認した。自分の意見に近い発表があるとワークシートにメモする児童が多く、みんなの意見を聞くことは自分の集材に役立つという意識をもつようになった。

資料2 抽出児Bのワークシート

資料1 抽出児Aのワークシート

伝えたい意見	名前	意見	根拠
伝えたい意見	自分	グリーンプラを使うのがいいと思う。プラスチックの害を減らす。	生分解性プラスチックは軟質だけでなく硬質もできるようになったからグリーンプラを使う。プラスチックの害についてメモしていた。
	名前	意見	根拠
	自分	グリーンプラを使うのがいいと思う。プラスチックの害を減らす。	生分解性プラスチックは軟質だけでなく硬質もできるようになったからグリーンプラを使う。
	名前	意見	根拠
	自分	グリーンプラを使うのがいいと思う。プラスチックの害を減らす。	生分解性プラスチックは軟質だけでなく硬質もできるようになったからグリーンプラを使う。

抽出児Aは、グリーンプラの製造過程を調べ、「生分解性プラスチックは軟質だけでなく硬質もできるようになったからグリーンプラを使う」という意見をもっており、交流活動ではプラスチックの害についてメモしていた。そして、交流活動後の伝えたい意見は「プラスチックの使用を減らし、グリーンプラを使う」に変わっていた(資料1)。Aは、今まで根拠を複数挙げることはなかったが、ワークシートにはたくさんの根拠をメモしていて、さらに調べようとする姿も見られた。Aは、交流活動を通し多方面からの事実を知ったことで、自分の意見を支える根拠が一つではないことに気付いていったと思われる。

抽出児Bは酸性雨に興味をもち、酸性雨の被害を調べていた。交流活動では、資料2のように自分の調べた被害のほかに銅像や森林の被害、川の汚れやごみの減量についてもワークシートに書いていた。酸性雨に関する発表を中心に、友達の意見をメモし、根拠となりそうなものを集めていた。また、交流活動後の意見を書くときに、自分の意見を深めることはできなかったが、「同じ考えでもいいんだよね」と、友達と確認し、伝えたい意見を明らかにしていこうとする姿が見られた。

伝えたい意見	名前	意見	根拠
伝えたい意見	自分	酸性雨をへらすたい。酸性雨をなくす。	群馬県桐生市にからまきとせいのふたつが、日本のいたる所から来た。
	名前	意見 <td>根拠</td>	根拠
	自分	酸性雨をへらすたい。酸性雨をなくす。	群馬県桐生市にからまきとせいのふたつが、日本のいたる所から来た。
	名前	意見 <td>根拠</td>	根拠
	自分	酸性雨をへらすたい。酸性雨をなくす。	群馬県桐生市にからまきとせいのふたつが、日本のいたる所から来た。

以上のことから、意見や根拠をクラスで紹介する交流活動により、最初に考えた自分の意見に照らし合わせて根拠として見えそうなものを集め、根拠を広げることができた。また、ワークシートに記入した意見や根拠を自分の意見や根拠と比較したことは、意見をはっきりさせたり、考え直したりするきっかけとなり、伝えたい意見を明らかにする上でも有効であったと考える。

2 自分の意見と根拠を書いた表や図を提示して班の児童に説明し、整合性や質を話し合う交流活動は、根拠を明確にする上で有効であったか

自分の意見や根拠を整理するために、図や表にまとめる活動を取り入れた。表や図に書けない児童には、一学期に学習した「言葉の研究レポート」のマップ作りと同様の様式で書けばよいことを助言した。児童は、前時の交流活動で書いたワークシートを基に、図を完成させていた。クラスの中には、紹介のあった参考図書でもう一度調べながら書いている児童もいた。

交流活動では、「合っているか、分かりやすいか、説得できるか」の視点で互いの根拠を見直し、友達に「どれを選ぶとよいか」の助言をすることを確認した。その後、図を使い選び方を具体的に考えさせた。児童の「環境問題として重要なもの」「共通する価値があるもの」を選ぶと説得しやすいという意見を取り入れ、選び方の視点をさらにはっきりさせ、グループ活動に入った。

班での交流活動は調べた課題が異なるために、自分では分かるつもりで書いた意見や根拠の内容を、友達は知らない場合が多かった。友達に「難

ぶための交流活動により、発表者にとっては、説明しながら自分の考えを整理したり、まとめたりすることができた。そして、「分かりやすい」と友達からアドバイスをもらうことにより、自信をもって根拠を選ぶことにつながっていた。助言者のときは、質問を交えながら自分の調べたことと異なる環境問題について発言することになり、説明を聞きながら根拠の選び方を考え、根拠の軽重や質に目を向けてアドバイスすることができていた。このことから、図を提示して意見と根拠の整合性や質を話し合う交流活動は、根拠を明確にする上で有効であったと考える。

3 意見文の根拠の提示順や意味付けを話し合う交流活動を取り入れたことは、筋が通り、分かりやすい意見文について考え、根拠を明確にして意見文を書く力を高める上で有効であったか

読みやすく分かりやすい意見文の構成について考えさせるために、頭かつ型と尾かつ型の両方の意見文を用意し、二つを比較する活動を取り入れた。「頭かつ型だと最初に意見があるから次の理由を読む時に分かりやすい」意見文の全体が短くなっているから読みやすい」という理由で頭括型の意見文を選ぶ児童が多かった。そこで、頭括型に合わせ、意見だと分かる文末、根拠だと分かる書き始めの言葉、根拠だと考える理由などに注意して、意見文を書くように支援していった。

交流活動では、まず、友達の意見文から根拠を探し出した。児童は、接続語や文末に注意して根拠を簡単に探すことができていた。

次に、より根拠に注目させるために提示順を確認させた。根拠の提示順の見分け方として、身近な問題からだんだん広がっていくもの、原因と現状、対比のパターンを示し、根拠の順番について話し合わせた。「大事なものから順番に書いたつもりなのに対比になっている」と、自分が書くとき考えたことと、読んでいるときの違いに気付いた児童の発言が、根拠の提示順の効果を考えるきっかけになった。

さらに、根拠の事実だけを書いている意見文と事実のほかに根拠だと考える理由や説明が書いてある意見文を比較して話し合うように指示した。すると、「根拠だと考える理由が入っていないね」と友達から指摘されていた児童が多かった。理由や説明が入っている意見文と入っていない意見文

とを比較し、「入っている方が説得しやすい」ということを感想として書いた児童が多く、根拠の意味付けの必要性を意識することにつながっていた。

資料5 抽出児Aの意見文

二	地	そ	し	か	す	植	の	と	キ	は	プ	質	プ	イ	ほ	グ
と	球	の	て	く	る	物	の	に	ン	植	ラ	が	ラ	ン	く	リ
に	も	二	も	反	と	に	二	毒	出	物	ス	出	は	プ	は	ン
は	な	酸	と	対	地	毒	倍	だ	る	の	チ	る	は	ラ	は	グ
な	ら	化	水	立	球	だ	だ	ら	三	で	ク	有	燃	は	は	リ
い	い	学	と	リ	の	が	人	か	酸	ん	害	害	や	は	は	ン
の	だ	も	二	ン	い	ら	間	り	カ	だ	物	出	す	は	は	グ
だ	ら	と	酸	プ	は	ん	ば	で	リ	か	出	な	と	は	は	リ
ら	な	あ	化	ラ	地	入	か	な	の	ら	な	い	と	は	は	リ
い	い	あ	学	の	球	入	り	く	年	か	い	生	と	は	は	リ
の	だ	あ	も	の	に	入	で	ず	は	ら	生	分	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	温	入	な	い	は	ら	分	解	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	暖	入	く	い	は	ら	解	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	化	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	学	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	生	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	活	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	動	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	物	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	や	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	サ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	リ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	ン	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	ク	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	の	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	サ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	リ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	ン	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	ク	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	の	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	サ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	リ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	ン	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	ク	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	の	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	サ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	リ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	ン	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	ク	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	の	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	サ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	リ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	ン	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	ク	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	の	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	サ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	リ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	ン	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	ク	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	の	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	サ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	リ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	ン	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	ク	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	の	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	サ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	リ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	ン	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	ク	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	の	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	サ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	リ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	ン	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	ク	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	の	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	サ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	リ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	ン	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	ク	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	の	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	サ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	リ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	ン	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	ク	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	の	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	サ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	リ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	ン	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	ク	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	の	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	サ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	リ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	ン	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	ク	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	の	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	サ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	リ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	ン	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	ク	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	の	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	サ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	リ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	ン	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	ク	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	の	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	サ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	リ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	ン	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	ク	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	の	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	サ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	リ	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
ら	な	あ	と	の	ン	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
の	だ	あ	と	の	ク	入	い	い	は	ら	す	す	と	は	は	リ
だ	ら	あ	と	の	の	入	い	い	は	ら	す	す	と			

植物にも毒だから、地球に毒だ。」という言葉に直し、根拠だと考える理由が読み手に正しく伝わるために言葉を補っていた(資料5)。

また、Aは助言する立場からは、「『界面活性剤の多く使われているのはシャンプーだ。だからシャンプーを使わないほうがいい。』という文より、界面活性剤が多く入っているシャンプーを使っていると髪の毛が細くなったり、抜けてしまったりすることを説明してから、シャンプーを使わない生活をしよう」と書くのと分かってもらえるよ」と、事実と意見を結ぶ説明を分かりやすく書くためのアドバイスをしていた。

資料6 交流活動の様子



抽出児Bは作文が長くなる傾向があるが、頭括型の意見文を短くまとめて書くことができた。読み手を意識し、伝えたい意見をはっきりもったことと意見文を記述する前に根拠を選んでいたことが、筋の通った文を書きやすくし、短くまとめることに効果があったと思われる。また、頭括型の文章構成の型が読みやすいという認識をもったことが読み手を意識し分かりやすい意見文を書くことに有効であったと考える。

交流活動では資料6のように、友達からも「酸性雨をなくしたいという意見に根拠が合っているね」「取り上げているのは事実だけだけど、事実が分かりやすいよ」などと指摘をされて一応満足していた。友達の発言から事実のほかに説明が入っていないことに気付いたが、書き足すことはできなかった。授業後の感想には「根拠を書くときに事実のほかに理由があるとわかりやすい」と書き、意味付けの大切さに気付くことができた。

Bは友達に対して、「根拠は、空き缶が増えてい

ること、缶を作るのにエネルギーを使うこと、缶をリサイクルしてもエネルギーを使うこと、だからこの順序は何だろう」と友達の意見文の根拠を探し、順序を考えようとしていた。

このように、意見文の根拠の提示順や意味付けを話し合う交流活動により、読み手に分かりやすい意見文になっているかを考えることになり、根拠を明確にして意見文を書こうとする意識を高めていくことができた。また、クラス全員の児童が意見文を書き上げ、満足感を味わうことができた。

研究のまとめと今後の課題

意見文を書くことにおいて、意見を支える根拠を集材、選材、構成、記述の各過程で明らかにしたことで、児童は、意見と根拠との整合性を意識し、筋の通った意見文を書くことができていた。

学習過程に応じた交流活動を取り入れたことは、友達から質問や助言をされ、意見と根拠を常に意識させ、自分の考えに自信をもつことができた。併せて、自分の意見をもちにくい低位群の児童にも意見をもたせることになり、全員の児童が意見文を書き上げることができた。上位群の児童にとっては、たくさんの根拠を調べる集材活動になり、一人で調べるよりも多くの視点から考えることができた。また、常に友達を意識し、自分の意見を伝えるための効果についても相談することができた。このように児童は交流活動を通し、意見をもち、根拠を明確にし、説得できる意見文を書く力を身に付けられた。

交流活動を学習段階に応じて3回取り入れたが、交流活動の必要性を意識させ児童の興味関心を持続させることが少々難しかった。今後は、根拠を書くときの言葉の使い方や根拠を意味付ける理由の書き方など、伸ばしたい言語能力を絞り、その力に焦点を当てた効果的な交流活動を工夫していきたい。

参考文献

- ・須田 実 編著 『国語力をつける発問づくり』 明治図書(2005)
- ・村田 昇序/吉永 幸司 著 『「書くこと」で育つ学習力・人間力』 明治図書(2002)

